

迷いや不安があるとき、“ささやかな幸せ探し”、していませんか。

志望校、無理かなあ……。勉強を頑張っているのに、成績、伸びてないし……。親に何て言おうかなあ……。

習い事の練習を、いっぱいしているのに、なかなか上手にならないよ……。期待されているのに……。

このように、目標をもち、頑張るからこそ、喜びがあり、何かにつまずき、悩むこともあります。大人だって、そうですよね。

☆ そんなときこそ……。子どもと一緒に、少し立ち止まって、“ささやかな幸せ”を見つけてみませんか。

保護者：「何をしているとき、楽しい？」  
 子ども：「好きなアニメを見ているときかなあ。」  
 保護者：「いいね。主人公のあの決めセリフは、最高だね。」  
 子ども：「……………」  
 保護者：「お父さんは、こうして、お前と話をしているときかな。」  
 子ども：「やっぱり、僕は、好きなアニメと唐揚げを食べてるときかな。」

屋外での散歩  
 好きな読書  
 音楽の楽しみ

☆ 日常の“ささやかな幸せ”に気づき、それを大事にすることが、困難なことが起きた際に、乗り越えるきっかけや力につながります。

《主な相談窓口》		
いじめ、不登校など	市教育相談室	Tel: 099-224-1179 (いじめ問題) Tel: 099-226-1345 (不登校など)
	かごしま教育ホットライン24 (24時間対応)	Tel: 0120-0-78310 (全国統一フリーダイヤル) Tel: 0120-783-574 (固定電話専用フリーダイヤル) Tel: 099-294-2200 (通話料有料)
児童虐待、非行など	県中央児童相談所	Tel: 099-264-3003 Tel: 099-275-4152 (つなごう よいこに) (相談専用電話「子ども・家庭110番」) Tel: 189 (いちほやく) (児童相談所虐待対応ダイヤル)
不登校、ひきこもりなど	かごしま子ども・若者総合相談センター (ひきこもり地域支援センター)	Tel: 099-257-8230
非行、家出など	県警察少年サポートセンター	Tel: 099-252-7867
思春期の心の健康	県精神保健福祉センター	Tel: 099-218-4755

学校名: \_\_\_\_\_ Tel: \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_

リサイクル適正の表示：紙ヘリサイクル可

いじめ問題・不登校等対応リーフレット



令和2年度「ニコニコ月間作品コンクール」吉野東中 2年 松永 葉奈

### 夜勤中だったのにごめんね

私がクラスで、孤独を感じていたとき、明日学校へ行きたくなくて夜眠れなかったから、夜勤中のお母さんに電話したんだ。だって、お父さんにはこんな気持ち話せないから。こんな涙見せられないから。

お母さんは、「今、忙しいんだけど。」と言いながら、電話を切ろうとしなかったよね。私、話したいことの半分も言えなかったけど。夜中なのに電話からもらえるほど大きなお母さんの声に、恥ずかしいけど安心したんだ。

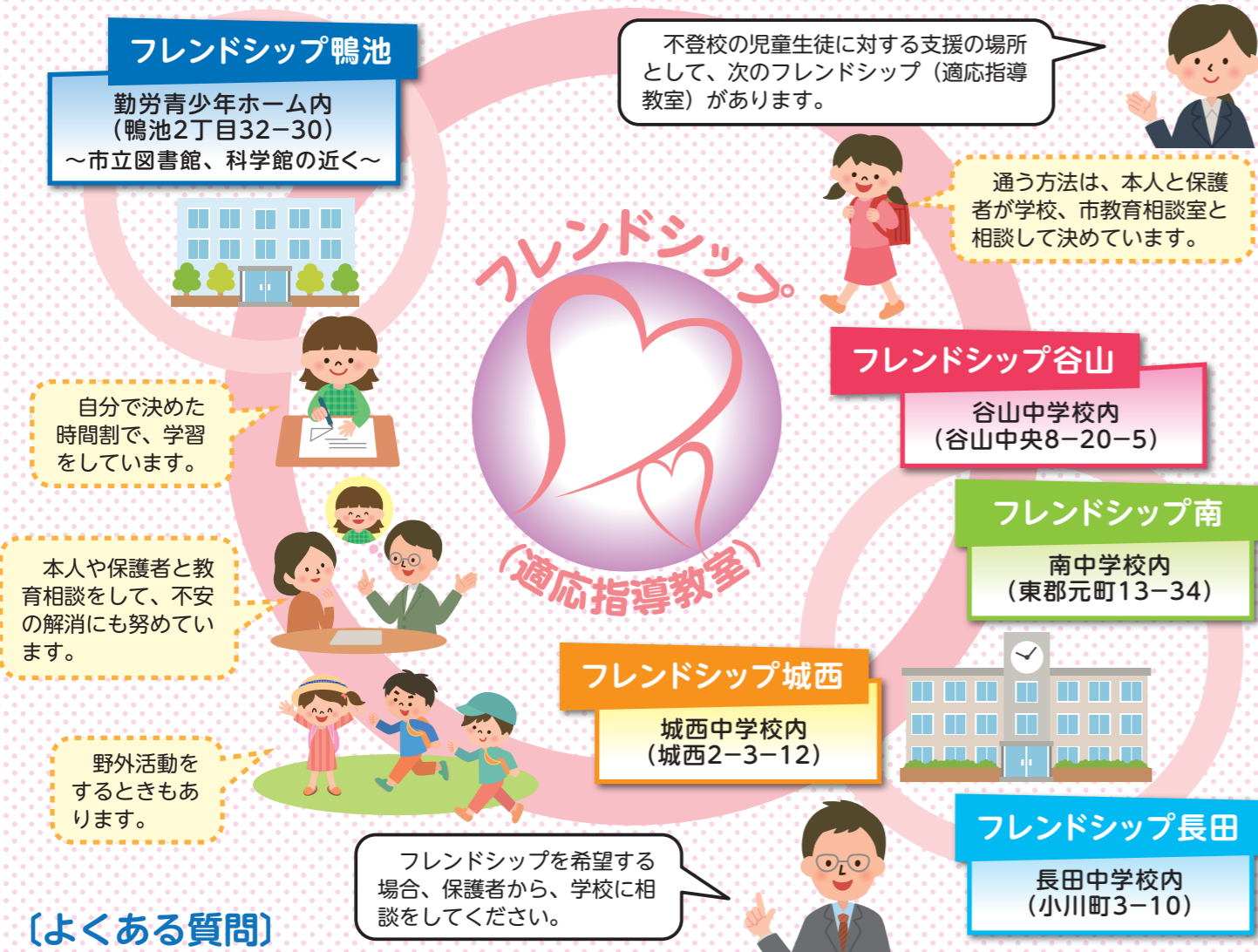
次の日、帰宅したら、お母さん少し涙目で待ってくれてたね。いつも短気で強いことばかり言うてるのに、私のことではすぐに泣いて必死になるよね。ちゃんと伝わってるよ。一緒に乗り越えてくれてありがとう。

ありがとう。



令和2年度「こころの言の葉」コンクール作品 中学生の部

# 学校に行きたくない気持ちに向き合ってみましょう。



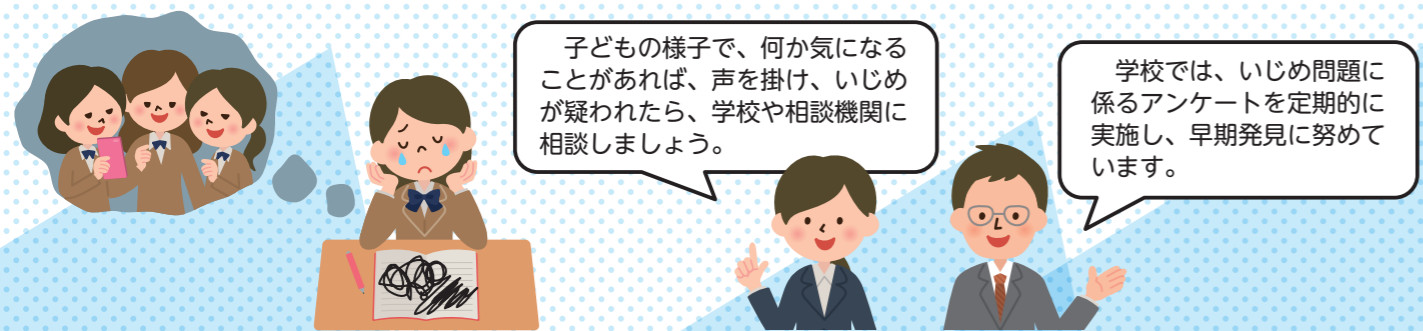
## よくある質問

Q1: どのような人が、子どもに関わっているの?  
A1: 適応指導相談員、臨床心理相談員、学習支援員、心のパートナー (大学生) です。

Q2: 通える対象は?  
A2: 小・中学校の不登校の児童生徒が対象です。

# いじめ問題に対して向き合ってみましょう。

いじめは、人が複数いれば、どこでも、誰にでも起こり得ます。もし、子どもの学級や部活動などで、いじめが起きた場合、子どもたちは、右のいじめの構造の中で、何らかの関わりをもつと考えられます。



## 【保護者に伝えたいこと】 ～市の教育相談担当者から～

- 子どもの話をじっくり聴き、安心する声掛けをしましょう。  
例: 「一緒に考えるから、大丈夫だよ。」  
教育相談室相談員: 男性 30代
- 子どもの関心のあることについて、話をしてみると、子どもは、自分のことを受け入れてくれると感じ、安心します。  
安心は、自信につながり、心に余裕をもたらします。  
臨床心理相談員: 女性 30代
- 子どもが話をしないとき、子どもは考えています。焦らないで待ちましょう。  
登校するか、しないかは子どもの判断です。そのため情報を与えましょう。  
スクールカウンセラー: 女性 40代
- 生活のリズムを整えることは、エネルギー源になります。  
子どもが希望する進路について、学校の先生とよく話し合しましょう。  
適応指導相談員: 男性 60代
- 子どもがイライラしていたら、感情的にならず、落ち着いたとき、何があったのか尋ねてみましょう。  
暴力を伴うときは、保護者だけで抱えこまないで、相談機関に相談しましょう。  
スクールソーシャルワーカー: 女性 40代
- 子どもの学習の状況に焦らず、子どもと一緒に学習を楽しむ気持ちが、大切だと思います。  
学習支援員: 女性 40代
- 子どもは、自分と同じ年代の頃の保護者の悩みや失敗談を聞くと、ほっとして、より身近に感じ、保護者に悩みを相談しやすくなると思います。  
心のパートナー (大学生): 男性 20代
- 学校では、定期的に教育相談を行い、保護者からの相談にも応じています。また、担任でなくても、教育相談に応じられますので、教頭先生に相談してみてください。  
教職員: 男性 40代

【参考】:「いじめの四層構造」(森田洋司氏による)

被害者	加害者	観衆	傍観者
いじめられている児童生徒たち	いじめる児童生徒たち	はやしたてたり、面白がったりして見ている児童生徒たち	見て見ないふりをする児童生徒たち
被害者への対応	加害者への対応	観衆への対応	傍観者への対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>「あなたを絶対に守る」という姿勢を伝えましょう。</li> <li>※ 犯罪性が感じられるときは、警察に相談しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の言動の理由を尋ね、悩みを理解しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「面白がる」こともいじめにつながっていることを理解させましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「見て見ないふりをする」「止めない」ことは、いじめを継続させていることに気付かせましょう。</li> </ul>
被害児童生徒の辛い思いを理解させましょう。			
理由はどうであれ、いじめは、絶対に許されないことを教えましょう。			
未然防止のための仲間づくりや、解消するための方法を子どもと一緒に考えましょう。			
抱え込むことなく、学校や教育相談室などの相談機関に相談し、連携して解消しましょう。			
※ 学校や学級での、いじめの未然防止に取り組む日頃の活動が重要です。			